

会議報告書(議事概要)	
会議の名称	「健康都市おおぶ」推進会議（令和３年度 第１回）
日 時	令和３年６月 28 日（月） 13 時 30 分～15 時 00 分
場 所	大府市役所５階 全員協議会室
出席者 （敬称略）	徳田 治彦（国立長寿医療研究センター） 伊藤 浩明（あいち小児保健医療総合センター） 早川 和喜（大府市医師団） 田中 渉（大府市歯科医師会） 榊原 明美（大府市薬剤師会） 山本 陽子（公募委員） 野村 恵里（あいち健康の森健康科学総合センター） 橋本 靖（愛知県知多保健所） 武村 強（大府市小中学校長会） 梶谷 修（大府市スポーツ協会） 加知 輝彦（認知症介護研究・研修大府センター） 斉藤 雅茂（日本福祉大学） 井上 啓子（至学館大学） 事務局（健康都市スポーツ推進課・健康増進課・地域福祉課）10 名 傍聴 1 名
内 容	
1 あいさつ 市 長： 本日はご多忙のところ、また、コロナ禍で出かけにくい状況の下、「健康都市おおぶ」推進会議にご出席いただき、まことにありがとうございます。 新型コロナウイルス感染症に関して、本日出席の皆様大変お世話になっている。ワクチン接種に関しては、高齢者の約 7 割が 1 回目の接種を、約 3 割が 2 回目の接種を終え、国立長寿医療研究センター、あいち小児保健医療総合センター、そして大府市医師団の先生方をはじめ、みなさまの献身的なお力添えにより今のところ順調に進んでいる。とはいえまだ高齢者がある程度終わった段階で、これから順次接種券を発送し、7 月中旬目途に接種可能な全ての方へのクーポン発送を完了する予定としている。ご案内のとおり、職域接種も含め、ワクチンの入荷状況が厳しい状況にあり、県や国の情報収集をしているところである。また、本市では、ワクチンの接種状況や接種スケジュールについて速やかに情報提供を行うため、ウェブサイトで見える化を図っているところである。 本市では、2020 年から 2030 年の 11 年間を計画期間とする第 6 次大府市総合計画を策定し、「ひとの健康」「くらしの健康」「まちの健康」「みらいの健康」そして「健康都市経営」という 5 つの領域を軸に、健康都市の実現を目指して取り組んでいる。	

本日の議題としては、みなさまの助言をいただきながら令和2年3月に策定した「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進プランの進捗状況や、地域包括ケア推進に関する取組、そして新型コロナウイルス感染症対策等について報告させていただきたいと考えている。盛りだくさんの内容となっているが、ぜひ忌憚のないご意見をいただき、健康都市をさらに推進していきたいと考えている。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

2 自己紹介

(委員および事務局の自己紹介)

3 会長選出

事務局： 健康都市おおぶ推進会議に関する条例第5条で、「推進会議には会長を置き、委員の互選によってこれを決める」としている。委員の皆様、どなたか推薦等をいただきたい。

委員： 徳田委員を推薦する。

委員一同： (拍手)

事務局： 異議なしとのことで、徳田委員に会長をお願いしたい。徳田会長から一言挨拶をいただきたい。

会長： 改めて会長へのご指名をいただき、光栄である。微力ながら精いっぱい務めさせていただきます。

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。2019年末に中国で発生した新型コロナウイルス感染症は瞬く間に世界を席卷し、全世界で390万人以上、医療先進国アメリカにおいても第二次世界大戦の犠牲者を大きく超える60万人もの犠牲者を数える事態となった。一方で、ウイルス感染症の切り札であるワクチンが信じられない速さで実用化されたことは不幸中の幸いであった。

愛知県内でも、知多地域はワクチン接種が比較的先行しているとのことだが、健康都市を標榜している大府市においては、より意識が高く、かかりつけ医の先生方をはじめ、関係各位の尽力により極めて順調であることは、先ほどの市長のお話にもあったとおりで、私ども長寿医療研究センターもその一端を担うことができ、誠にうれしく思っている。まだまだ出口が見えない状況ではあるが、皆様とともに頑張ってまいりたい。

久しぶりの開催となった本会議では、健康増進に係る都市計画の根幹である「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進プランの進捗状況などが審議されることになっている。委員の皆様には、様々な視点から、活発な議論をお願いしたい。

4 議題

(1)「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進プラン 2020-2030 について

事務局： 「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進プラン 2020-2030 について【資料 No.1-1、1-2】 説明

事務局： 「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進プラン 2020-2030 について【資料 No.1-3、1-4】 説明

委員： 資料No.1-1について3点お伺いしたい。1点目は、3ページの通いの場への専門職派遣は素晴らしい取組だと思うが、その効果をどのように評価する予定かお伺いしたい。2点目は、8ページの口腔機能の低下について、EAT-10は10項目で構成されていて、3点以上の方の割合を追っているということだと思うが、具体的な項目を見ることでより対策が立てられるのではないかと感じた。10項目中どの評価項目の該当割合が上がっているということがわかれば教えていただきたい。3点目は、自死対策の基本目標は「誰も自死に追い込まれることのない社会の実現を目指す」とあるが、目標値はゼロではなく3年平均で人口10万対12以下となっている。12名までは許容するというように見えてしまうが、どのような整理になっているのか確認させてほしい。

事務局： 高齢者の通いの場に、保健師、管理栄養士、歯科衛生士などが出向くことで、健康相談や健康教育を実施することを予定している。地道な活動により、少しでも多くの方に関わり、計画にある「新規要介護認定者の平均年齢」が上がっていくことを期待している。

事務局： EAT-10は飲み込みに関する10項目の問診だが、食べる機能健診では、この問診のほか、口腔内の乾燥状態や舌や唇の力などを調べている。様々な項目とEAT-10をクロス集計すると、3点以上の方は口腔機能が弱いことがわかったため、評価指標として3点以上の方の割合を追っている。各問診項目については詳細に追っていないが、先生からご意見をいただいたので、各項目についても傾向を見ていきたい。

事務局： 自死対策計画については、ゼロが最終目標ではあるが、まずは現実的な目標として、国や県の目標設定に準じて、現状値から3割減を目指している。対策を推進し、一人でも少なくなるよう取り組んでいく。

委員： 資料No.1-1の身体活動・運動について、中学2年生の運動が嫌いな生徒の割合は改善しているが、男子が約1割、女子が約2割で、個人的には高いと感じている。なぜ嫌いなのかを把握する機会があるとよい。本来運動やスポーツは楽しいものだが、子どもの頃に楽しい経験がないと嫌いになってしまい、将来的に運動

習慣が身につかないのもそこに原因があるのではないかと感じている。

事務局： ご指摘のとおり、子どもの頃に運動の楽しさを知って、生涯にわたりスポーツを習慣化してほしいという思いで指標を設定している。嫌いな理由についても、機会を捉えて把握していきたい。また、取組に関しては、特に学校では幅広く様々なスポーツに取り組んでいただいております、また市としてもエニスポや少年団はじめ、様々なスポーツに触れる機会を作っている。その中で自分にあったスポーツを見つけてもらえるよう、施策を展開していきたい。

委員： No.1-1の3ページの、生活習慣病重症化予防事業について、受診勧奨でどのくらい受診率が改善しているといった経過がわかるとよい。また、4ページの栄養・食生活において、後期高齢者で痩せている人が増えている実態があるので、フレイル対策にどのようにアプローチしていくのか、具体的な事業が見えるとよいと感じた。

事務局： 生活習慣病の重症化予防事業として受診勧奨を実施している。昨年度は受診勧奨を約90名に実施し、20名が受診につながったという結果になっている。また、18名に保健指導を実施している。

委員： 身体活動・運動のところで、運動が嫌いな生徒の割合は、中2を定点観測していくのか、それとも同じ人の経過を追っていくのか。

事務局： 毎年実施される「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」について、小5と中2で詳細な調査が行われている。全国の値と比較しながら推移をみていくこととしている。

（2）地域包括ケアの推進について

事務局： 地域包括ケアの推進について【資料No.2】 説明

委員： 地域包括ケア推進ビジョンに自治会加入率が掲載されているが、大府市の加入率は高いのかお伺いしたい。また、ふれあいサロンについてはどのくらい活用されているのか教えて欲しい。また、自死対策計画のところにも出てきていたが、セルフディフェンス講座の実施率もおしえていただきたい。

事務局： 自治体加入率は全体では約70%と高い加入率になっているが、地区によりかなり差がある。

事務局： ふれあいサロンについて、設置数は把握しているが、詳細な活用状況は把握していない。開催すればよく利用されている方を中心に、活用いただいていると認

識している。

事務局： セルフディフェンス講座については、小学4年生と中学1年生の全生徒に対し毎年実施している。各学校は計画策定前から講座を開催いただいており、先駆的な取組だと認識している。

(3) 新型コロナウイルス感染症対策について

事務局： 新型コロナウイルス感染症対策について【資料No.3】 説明

委員： 健康プラザのトレーニング室には近隣市町の高齢者の方がたくさん見えている。予約の取り方から接種状況までいろいろと話していただき、状況がよくわかる。接種後、みなさんが安心して始めており、マスクを外していいのではないかという雰囲気が出てきている。接種後の過ごし方など、何か啓発していることなどがあれば教えていただきたい。

事務局： 接種後についても、接種前と同様の対策をお願いしており、何か変わるということとはご案内していない。

委員： ワクチン接種予約の問い合わせや苦情はあまりないのか。

事務局： ワクチン接種の予約に関しては、コールセンターで対応するほか、インターネット予約に関しては、予約の取り方を説明する動画の作成や、公民館でのインターネット予約支援を行った。それでも、4月の最初の予約では、ワクチンの供給量が少ない中で申込が殺到し、少し混乱した。

委員： 近隣市町のウェブサイトを開覧してみたが、大府市のサイトは接種券を掲載して、この部分を入力するとよいと具体的に書いてあり、一番わかりやすかった。また、見える化についても、自分の接種順位が来ていなくても、いつ頃接種できるかイメージできれば安心するので、とてもよい取組だと感じた。

委員： 毎日ウォーキングに取り組んでいる。これからの季節は熱中症対策も必要だと思うが、屋外でウォーキングする場合でも、マスクは必須なのか。

事務局： おひとりでウォーキングされる場合にはマスク着用は必要ないと考える。これから熱中症も心配されるので、場面に応じてマスクの使い方を考えていく必要がある。どなたかと会話をされる場合には、マスクの着用をお願いしたい。

委員： ワクチン接種に関わる皆さんの苦労は身をもって実感しており、感謝している。我々医師団も個別接種や集団接種を含め対応しているところだが、ワクチン接種

はいつ頃完了するのか見込みを知りたい。ワクチンが不足している状況もあるが、我々も土日を含め対応しており、スタッフがかなり疲弊している。今後10月以降はインフルエンザのワクチン接種も始まるが、同時に対応していくというのはほぼ不可能ではないかと感じている。

事務局：年代によって接種率がかなり変わると考えているが、このままワクチンが順調に届くと仮定して、10月末に6割弱、11月末までに7割5分くらいを想定している。ワクチンの供給状況と職域接種の再開時期などによるが、高齢者は7月末まで、全世代を含めて11月目途には希望者への接種が行き届くと想定している。

会長：ワクチンが供給されなければ進まないということもあるが、インフルエンザ予防接種と両方対応するのは大変だというのはよく理解できるところである。

ワクチンに関して、基礎疾患のある方を自己申告制にしたのは非常にスピーディーに対応でき、よかったと感じた。他自治体では基礎疾患のある方への対応が遅れているところもある中、迅速に対応いただき感謝申し上げます。

委員：当センターは県立の小児病院のため、高齢の方への接種にご協力できず、一部の医療関係者への接種をお手伝いするにとどまっている。現在は県営名古屋空港での大規模接種会場へ職員を派遣して接種に当たっている状況である。今後、12歳から15歳までの希望者への接種が始まれば、お子さんへの接種には対応できる可能性はあると感じている。また、市内公共施設での集団接種に人手が必要な場合は、職員を派遣することも必要に応じてご協力させていただきたい。

当センターにかかっているお子さんには、センター内で接種してあげたいと考えているが、現時点では専門医療機関へのワクチン供給ルートが確立されておらず、職員接種が終わった時点でワクチンの供給がない状況である。今後可能性があれば対応していきたい。

委員：議論の中で出てきた内容についていくつか補足したい。セルフディフェンス講座は、小学4年生と中学1年生の全児童生徒に対し、不審者対策や友達との関係づくりから自死対策に関することまで、幅広い内容で専門家の方に教えていただいている。

また、本年度から市内の全小学校で、小学1年生に対し体力向上プロジェクトがスタートする。音楽に合わせて3分間の全身運動を行うもので、かなりハードな内容だが、子どもたちは一生懸命取り組んでいる。

また、感染症対策やマスクの着用について、学校側にもたくさんのご意見をいただいている。公園で子どもがマスクを外しているがどういう教育をしているのかという意見や、暑い中登下校でもマスクを着用しなくてはいけいいのか、その判断を子どもにさせるのか、といった質問もいただく。学校としては、様々な安全面の配慮をしながら対応しており、例えば夏休みが近くなると、各学校で、熱

中症対策として、教科書を学校に置き、ランドセルではなく両手がふさがらないナップサックなどの利用になっていくのではないかと想定される。他自治体では日傘をさして登下校といったこともメディアで紹介されていたが、小学一年生くらいだと、傘を広げるとちょうど目の高さになり、目をつく可能性もあるなど課題もある。どの小学校も運動を伴う外遊びの際はマスクを外してよいとしており、屋外ではマスクをしない場面も多いと認識している。昨年度はWBGT（暑さ指数）が高い場合、外での遊び自体禁止となることも多かった。一方で子どもたちは結構元気に過ごしており、私の小学校でも約800人の児童のうち、少ない時は一桁、多くても20人弱の欠席という状況である。大府市はじめ、みなさまにご協力いただき、うまくやっているような状況である。

委員： 私は看護師をしているが、他自治体のものだったが、「大府市健康プログラム」のように、機器を活用した事業に参加されている患者さんがおり、市内の様々な場所でフィードバックでき、データを見てあれこれ会話するのを楽しんでいらっしやう。長期に入院されてつらい治療を受けていたが、体力を落とさず無事退院されていかれたのを見て、機器を活用して健康づくりに取り組み、またそれを通じてコミュニケーションが促進されていくという一例を見ることができた。

委員： いい事業をしているので、あとは周知啓発をどう図るかだと感じる。私は活動量計をもって健康プログラムに参加しているが、事業自体知らない市民が圧倒的に多い。ウェブサイトで大々的にPRするなど、検討していくといいと思う。

事務局： 現時点では広報おおぶやウェブサイト、新聞等プレスに掲載いただくなどで周知している。また、メインターゲットがビジネスパーソンなので、事業所に個別に訪問し、ご案内している。市民への周知はまだまだ足りない部分もあると思うので、何かしら策を講じていきたい。

委員： 商工会議所などにも配架しているのか。

事務局： 商工会議所にもお持ちし、会員企業への周知をお願いしている。また、昨年度「健康経営に関する連携協定」を締結しており、大府商工会議所と協会けんぽ愛知支部にもご協力いただき、市で関わり切れていなかった事業所にもアプローチしていく予定としている。

委員： 歯・口腔の話では、3歳児健診のところでう蝕が増えているというデータを見て、いわゆる巣ごもり状態の影響が出ていると感じた。また、説明にあったとおり重症化後の来院も確かに増えている印象がある。

小中学校で実施しているセルフディフェンス講座は、児童生徒以外も受けることができるのか。保護者はもちろん、より多くの人が受けることができれば、自

死も減るのではないかと感じた。

委 員： セルフディフェンス講座については、市で予算立ていただき、各学校で実施しており、基本的には保護者の参加は認めていない。自死対策については、もし児童の中にご家族を自死で失った子どもがいたらなど、様々な制約がある中、命の大切さについて通常の教育の中で伝えつつ、市に支援いただいている活動となっている。

5 その他

（委員からの連絡なし）

事 務 局： 本日は長時間にわたり貴重なご意見をたくさんいただきありがとうございました。皆さまからいただいた新たな評価の視点や分析へのご意見、新たなご協力の申し出等に基づき、プランの推進や新型コロナウイルス感染症対策等進めてまいります。

事 務 局： 第2回の開催は、2月14日（月）、場所は今回同様全員協議会室を予定している。開催日が近くなったら、改めてご案内をさせていただきます。